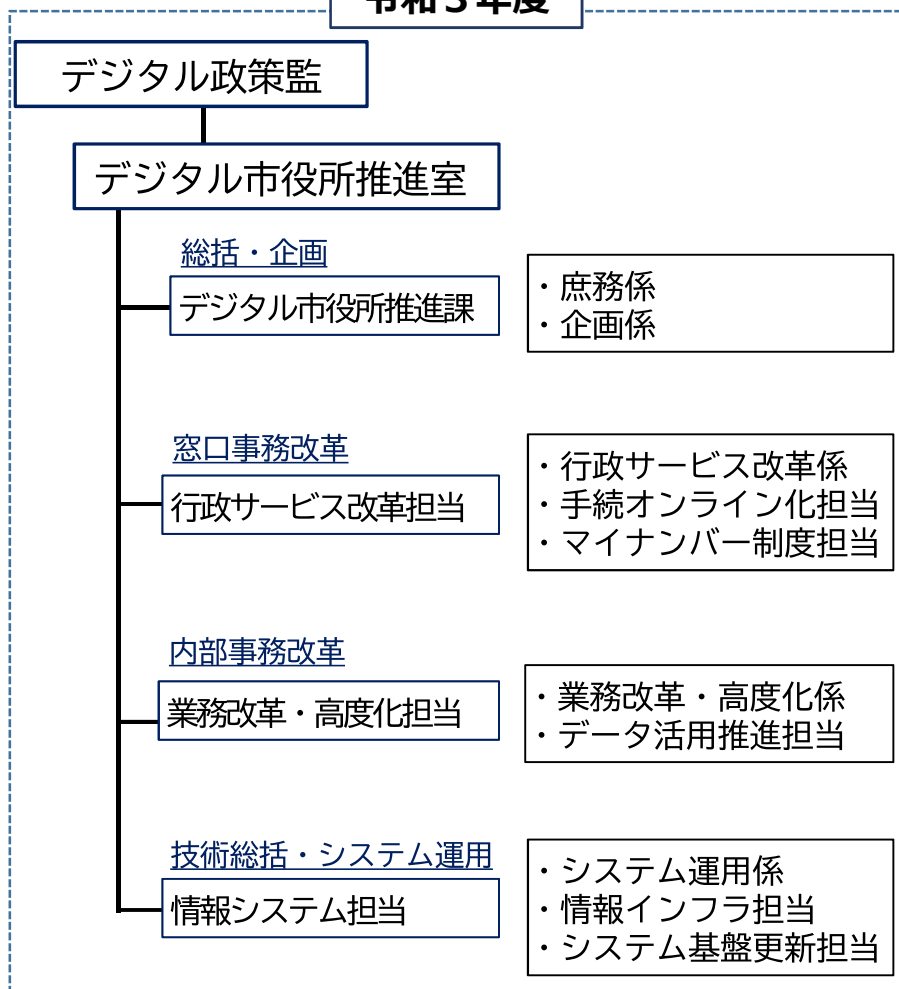


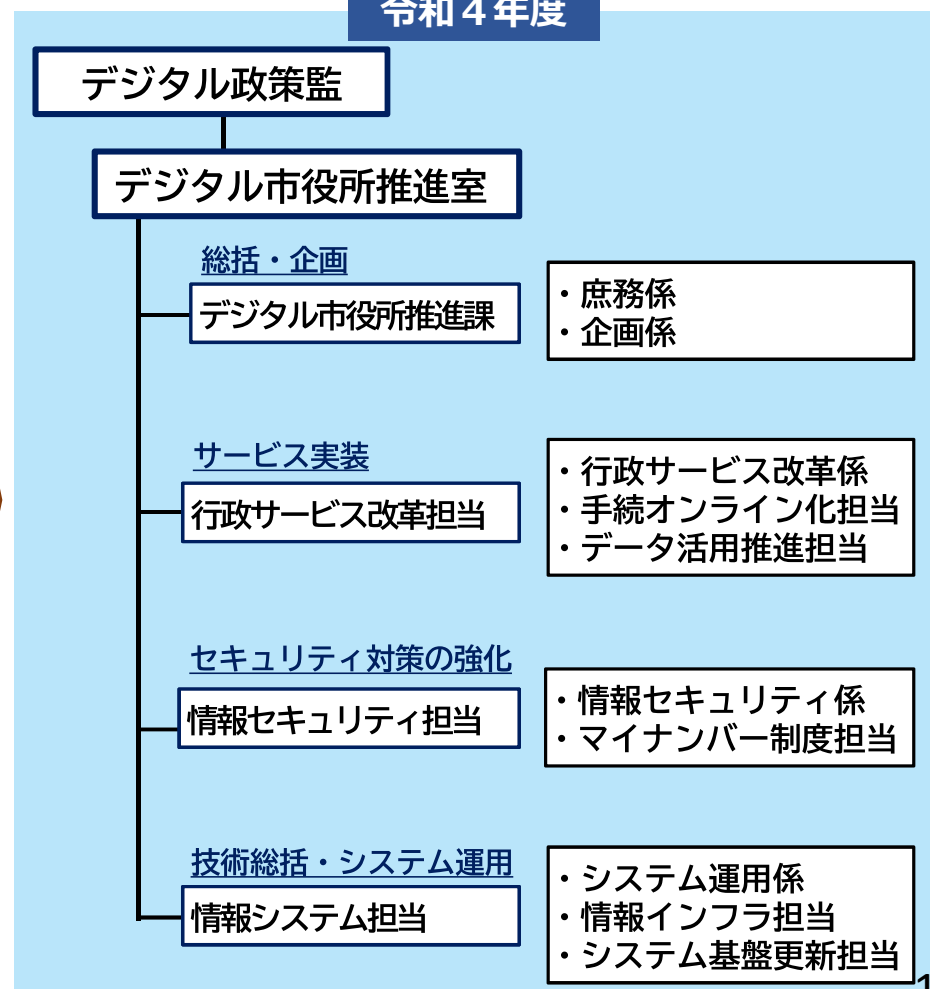
令和4年度 デジタル市役所推進室の組織体制について

- 「北九州市DX推進計画」に基づき、集中取組期間（～令和7年度）でのDXの基盤整備完了にむけ、行政サービスの入口から出口まで、一気通貫で見直しができるよう、担当課長ラインを統合。
- 情報セキュリティ対策をより強化するため、専任ラインを新設。

令和3年度



令和4年度



令和3年度の取組

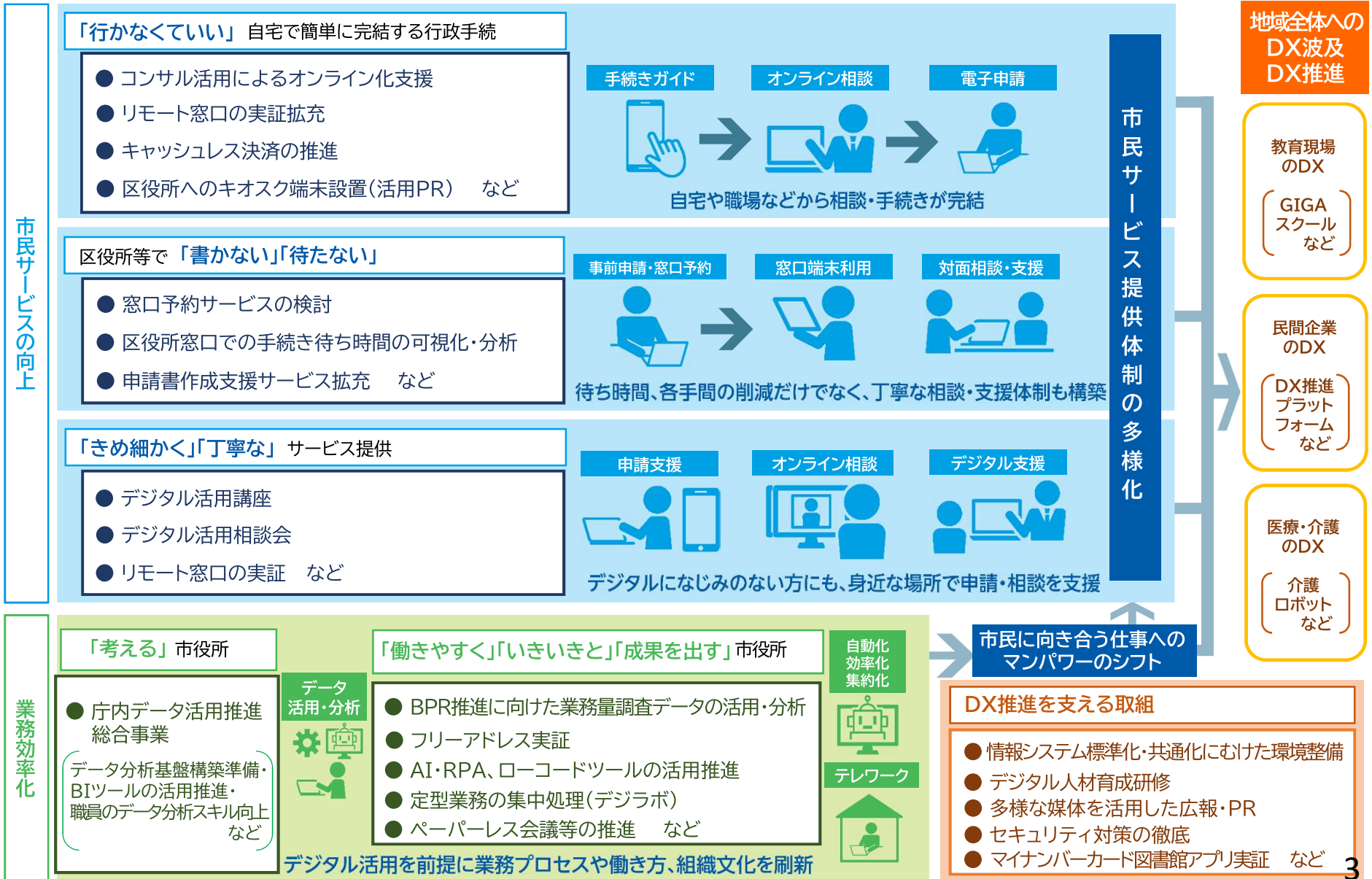
- スピード感をもってDXを推進するため、取組の指針となる「北九州市DX推進計画」を策定（R3.12）
- 計画に基づき、令和7年度までの5年間を集中取組期間として、市民サービス向上、業務効率化、働き方改革に三位一体で取り組み、**まずは市役所のDXを推進し、地域のDXへとつなげる**

	課題・取組	成果	
市民サービスの向上	<p>「行かなくていい」 自宅で簡単に完結する行政手続</p> <p>自宅や職場で手続きが完結 デジタル窓口 電子申請 オンライン相談</p>	<p>デジタル窓口の開設 オンライン手続きのポータルサイト</p>  <p>電子申請・施設予約・各種キャッシュレス決済等を一カ所に集約</p> <p>リモート窓口 従来、区役所で受けている相談を出張所に対応</p> 	<p>手続きガイド拡充・オンライン化推進 スマホ等で簡単な質問に答えると必要な手続を案内</p>  <p>転入・転出 妊娠・出産など 8手続き案内</p> <p>1,031種類（約5割）のオンライン化完了</p>
	<p>区役所等で「書かない」「待たない」</p> <p>待ち時間や書く手間の削減 事前申請・窓口予約 窓口端末利用</p>	<p>デジタル活用講座 高齢者等を対象としたデジタル活用のきっかけ作り</p>  <p>25カ所で実施 248名参加</p>	<p>申請書作成支援 窓口で職員が聞き取りながらタブレットを使用して申請支援</p>  <p>小倉北区役所保健福祉課で実施</p>
	<p>「きめ細かく」「丁寧な」サービス提供</p> <p>デジタルになじみのない方にも丁寧に支援 デジタル支援 申請支援</p>	<p>定型業務の集中処理 AI文字起こしやRPA処理などを集約して集中処理</p>  <p>1年間で作業時間約8,488時間削減</p>	<p>業務量調査 コニカミノルタ社との連携協定に基づき、専用ツールを活用</p>  <p>DXの基礎資料として 約5万9千業務の手順等をデータ化</p>
	<p>「考える」市役所 デジタル前提で業務プロセスや働き方を刷新 データ活用・分析 効率化・集約化 テレワーク等</p>	<p>ローコードツール活用 サイボウズ社との連携協定に基づき、伴走型で導入支援</p>  <p>全庁で100件以上のkintone導入相談</p>	<p>モバイル端末活用 ペーパーレス会議やテレワークを推進</p>  <p>会議や内部協議をペーパーレス化</p>
業務効率化	<p>「働きやすく」「いきいきと」「成果を出す」市役所</p>	<p>市民サービス提供体制の多様化</p> <p>市民に向き合う仕事へのマンパワーのシフト</p>	

地域全体へのDX波及・DX推進

令和4年度の主な事業

「デジタルで快適・便利な幸せなまちへ」



デジタル田園都市国家構想推進交付金概要

デジタル技術の活用により、地域の個性を生かしながら、地方を活性化し、持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した、意欲ある地域による自主的な取組を国が支援。

(対象事業)

デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、他の地域等で既に確立されている優良なモデル等を活用して迅速な横展開を行う地方公共団体の事業 等

本市採択事業：「デジタルで快適・便利な幸せなまち」の実現事業（令和4年度事業）

○概要

「北九州市DX推進計画」に基づき、

- (1) 市民サービス向上に向け、市民が「行かなくていい」ことを目指し、自宅や、より身近な場所で手続きが完結できるよう、手続きのオンライン化を進めるとともに、リモート窓口などの拡充に取り組む。
- (2) 区役所等に出向く場合でも、事前申請・窓口予約・端末利用といった方法により、「書かない」「待たない」、簡単・スピーディな行政サービスの提供を図る。
- (3) 「考える」市役所に向け、AIの活用やデータ利活用を推進するとともに、「働きやすく」「いきいきと」「成果を出す」市役所にむけ、デジタルによる事務の集中処理、ローコードツール等の活用を進める。

○具体的な取組

- ・申請件数が多く煩雑な事務処理を伴う業務を対象とした、集中的なオンライン化支援
- ・オンラインでの区役所窓口の事前予約サービスの実証
- ・リモート窓口、申請書作成支援サービスの拡充
- ・デジタルに不慣れな高齢者等を対象としたオンラインサービスなどの体験型講座の開催
- ・AIやRPA、ローコードツール等のデジタル技術の積極的な業務への活用 など

○今回の採択額：6,000万円（交付対象事業費：1億2,000万円） ※補助率1/2

第1回日経DXアワード大賞受賞について

日経自治体DXアワード概要

先進的なDXの取り組みを行う全国の自治体を対象にタイトルを贈り、その取り組みを広く周知することで、社会全体のDXリテラシーレベルの向上と、日本の産業力強化に寄与することを目指すもの。

- 主催 日経デジタルフォーラム
- 募集部門

- ① 「DXリード部門」
- ② 「デジタル人材育成部門」
- ③ 「行政業務／サービス変革部門」
- ④ 「地域産業デジタル化推進部門」
- ⑤ 「地域リテラシー啓発部門」

本市は下記3部門を受賞し、**全国で唯一の大賞を受賞**

-
- ② 「デジタル人材育成部門」
 - ③ 「行政業務／サービス変革部門」
 - ④ 「地域産業デジタル化推進部門」

各受賞部門の主な取組

「デジタル人材育成部門」

ローコードツールを活用したシステム内製化

- サイボウズ社と連携協定を締結し「kintone」のハンズオン研修を実施
- 自ら主体的に業務改善のためのシステムを内製化できる人材を全庁的に育成

管理職テレワーク研修

- 管理職のテレワークに対する理解促進と実施しやすい職場環境づくり等のため、全ての管理職（課長以上）を対象にテレワークにトライアルする研修を実施



「行政業務／サービス変革部門」

市民向けサービス変革

- 各種申請・施設予約等を一か所に集約した「デジタル窓口」の開設
- 手続きガイドの拡充やオンライン化の推進
- 区役所等でリモート窓口や申請書作成支援

市役所内部の業務改革

- 定型業務を集約化し、デジタルを活用して一括処理を行う「デジラボ」の開設
- モバイル端末1,500台を活用したペーパーレス会議やテレワークの推進



「地域産業デジタル化推進部門」

北九州市DX推進プラットフォーム

- DXを推進したい「市内ユーザー企業」と「デジタル化等を提案できるベンダー企業」をつなぐプラットフォームを創設
- セミナー、相談、補助事業等、切れ目のない支援体制を構築し、DXを推進。

先進的介護「北九州モデル」

- ICT・介護ロボットの導入等、デジタル化により生み出される「時間」を活用し、介護の質向上、職場環境改善を実現する「北九州モデル」を展開

